

繪首  
入書

世界都路

北亞墨利加洲

五

柳田文庫

文庫11

A1837

5

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

世  
邦  
略  
卷  
五

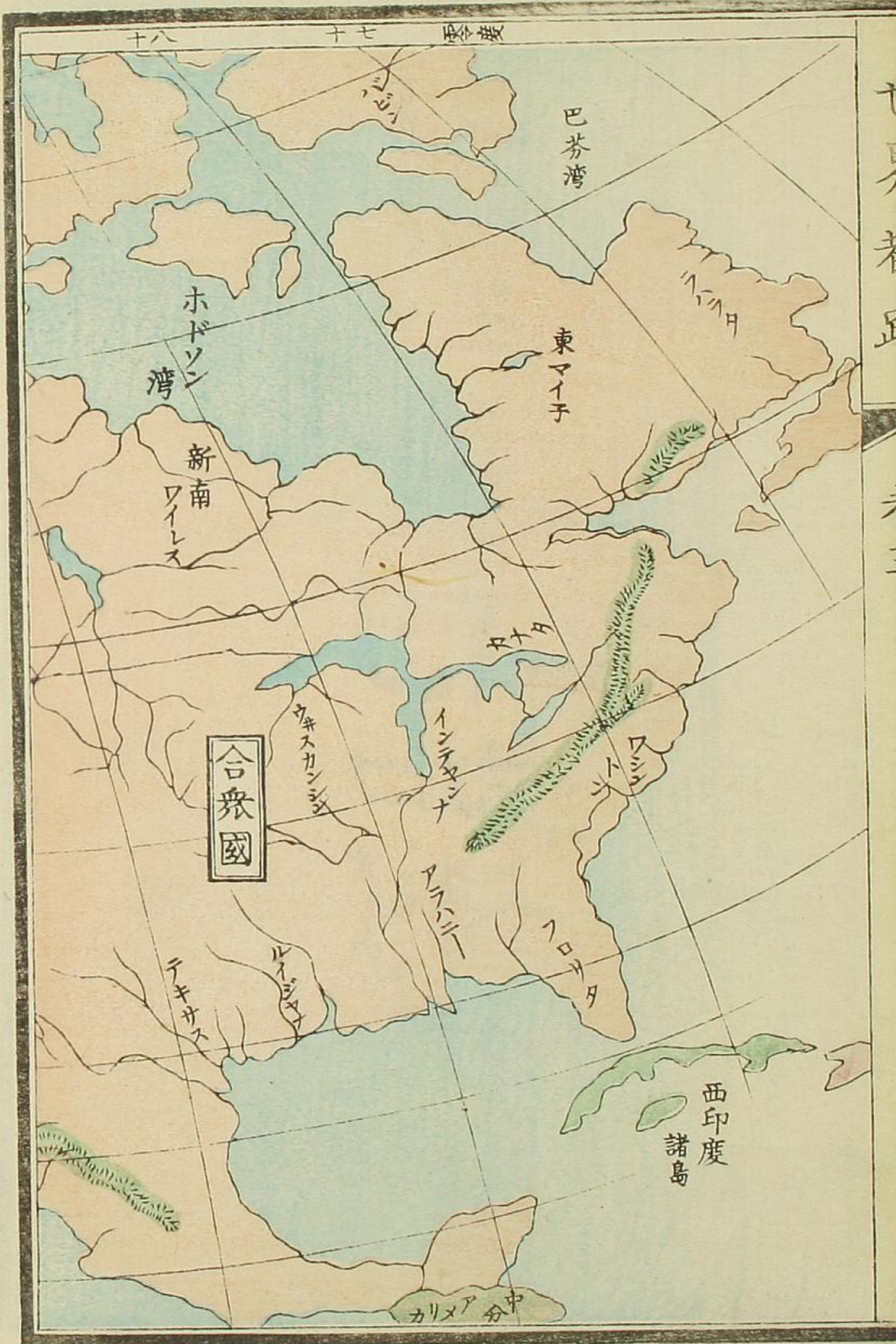
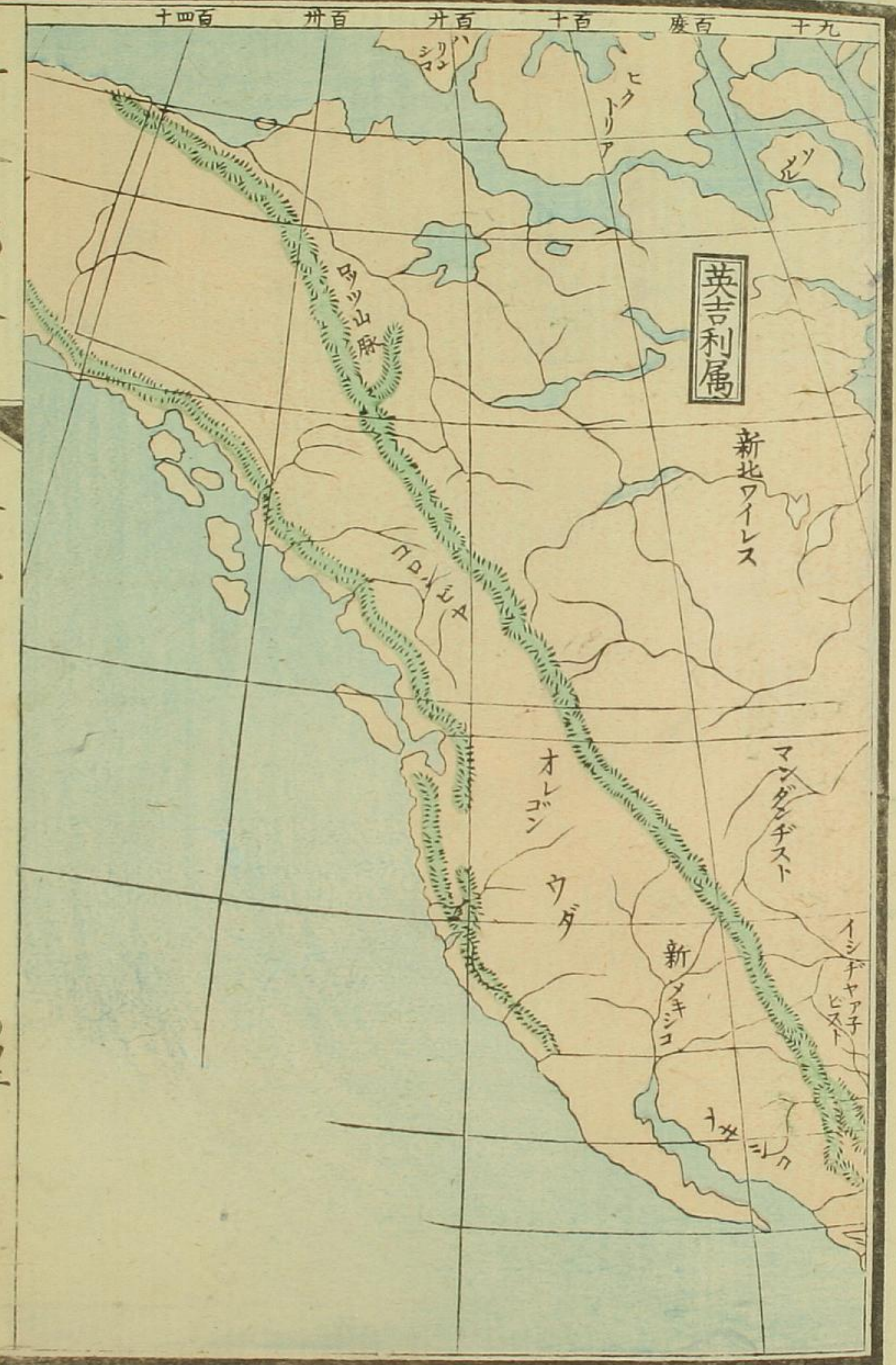
北亞墨利加洲地圖

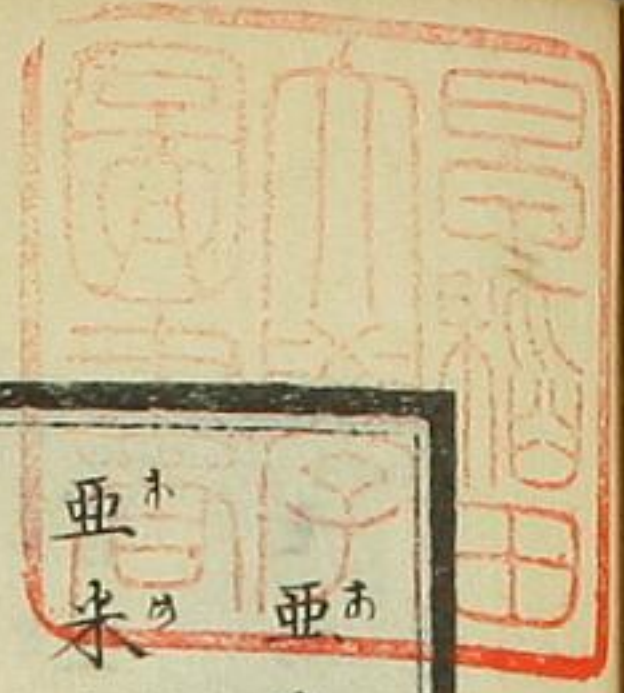
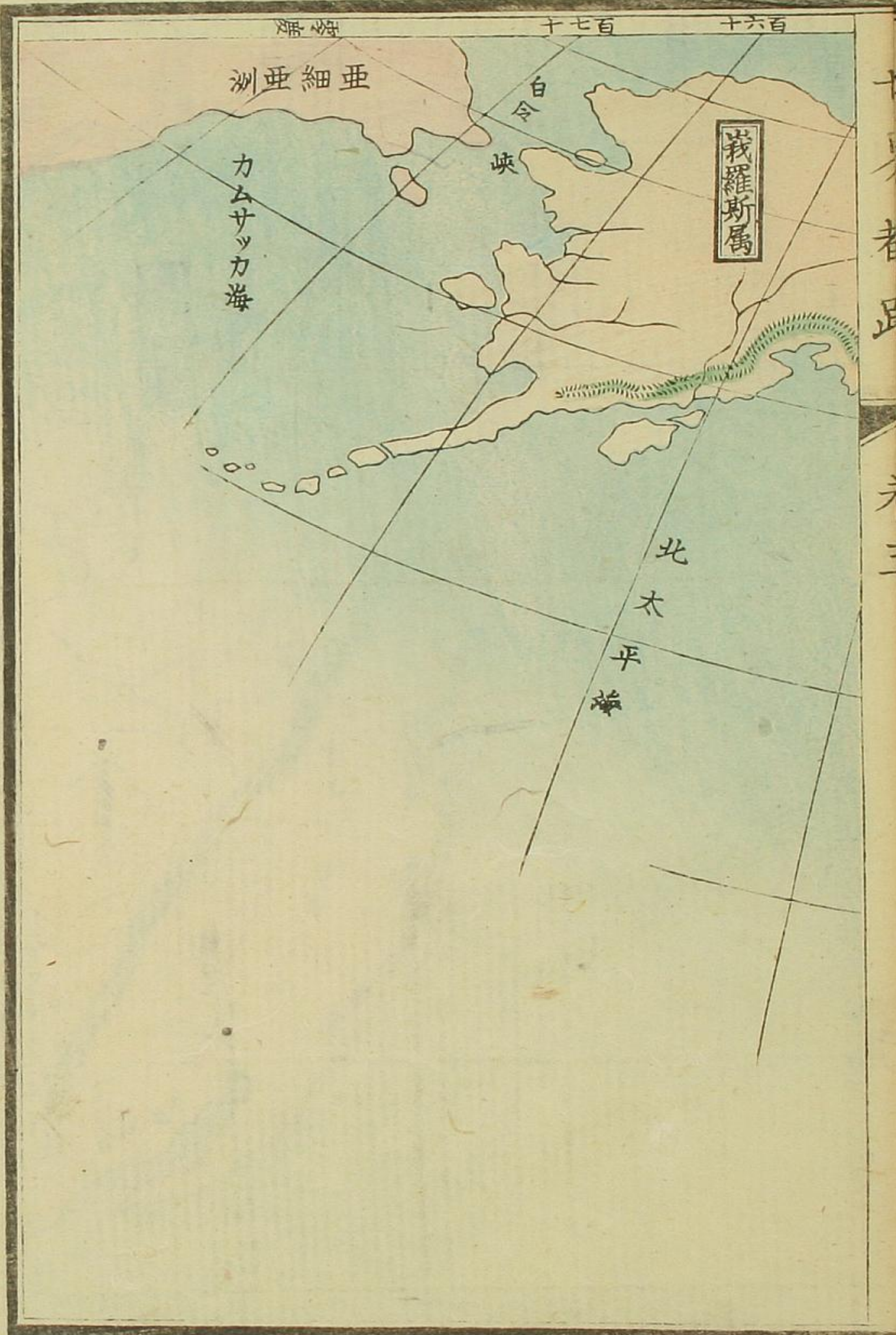
011

文庫 11  
A 1837  
5

柳田泉文庫

48-7742





亞米利加の事  
 西の半面ふして  
 細亞阿非利加歐羅  
 巴の三洲と相連  
 地を南北西土小  
 分つ東大西洋南  
 南氷洋西の大東洋  
 小界せり初め地球  
 の東半面小在者ハ

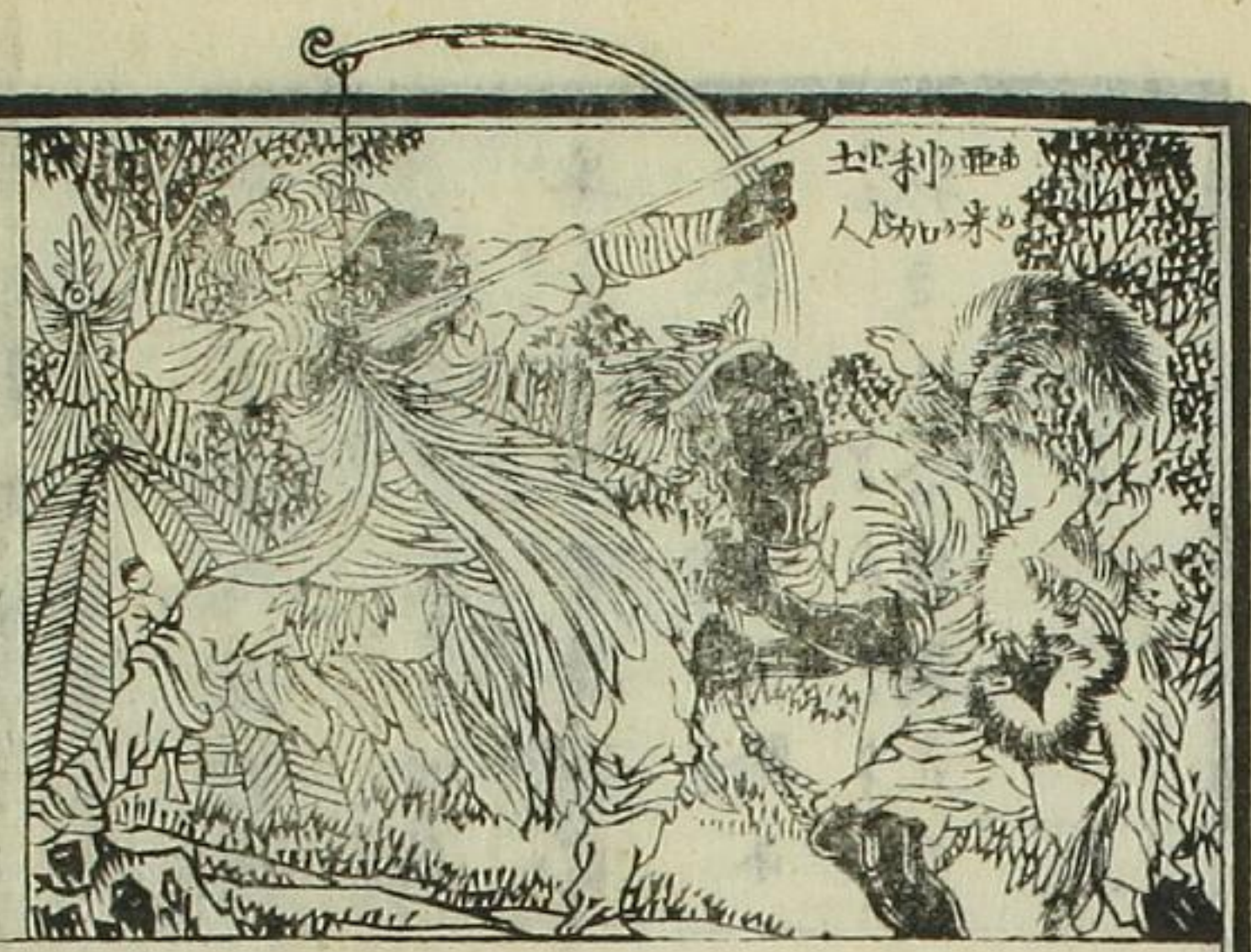
世界部各

卷五

北亞米利加洲  
 往方是亞細亞阿  
 非利加歐羅巴三  
 洲の北は外小絶て  
 國ちるをまこと

皆此土有ると知らざりしが一千四百九拾年間以太利國の科倫布始めて此地を檢出し以來西班牙船の外葡萄牙の船海を航りて地を拓き此三國の人皆土人と戦ひて各その所屬とを次で

思ひめぐらば地  
の地球の  
東と西  
の間土地  
あり



英吉利佛蘭西荷蘭  
連國瑞國の人々  
亞米利加至りて得

少年曼玉乃  
天文者歛白尾  
西人  
舟を走せ  
新地を遠く

國の爲に保せらるる所の地多くは英領此土に富盛と数百年間然る千七百年代米利堅花旗國デステラの民英吉利の苛酷年貢の取立に苦み終に叛きて合衆獨立の國とあり

輝るまゝ後小以右  
 利垂は科倫布と  
 ころ個西班牙王の  
 后ある以色羅刺  
 姉は助勢少を以て



亜米利加之土人  
 銅色あり其性至つ

も絶え子四百九十二  
 年は秋仲旬大  
 終三艘の纜解き  
 て手出し六百余  
 目ゆきし時

世界邦各

卷五

て愚魯ゆゑ理を明  
 か小書と讀むの  
 むどの絶てふ北  
 亜米利加之極北境



日本の熊の毛  
 多し見出さる新  
 世界復そは乃  
 船是を踏む彼  
 変りし事也

の寒気強く年中冬  
 ふして海辺に在る  
 者ハ魚と捕へて食  
 と南の方ノ獸と  
 獵を以て生活とし  
 其皮を衣とするこ  
 と略亞細亞蒙古の  
 俗に似たり  
 英吉利領の亜米利  
 加之北の方氷海に

船將美理哲こそ  
 此方海をめぐり周  
 里物産地の理風  
 俗を詳し記し  
 海なる事邦土を

至り南ハ合衆國ハ  
 界ハ東ハ大西洋西  
 ハ大洋海ハ距り其  
 地大半平坦ふし  
 溪河錯雜り時候寒  
 氣嚴く奇らしき獸  
 類異なり魚類龍蛇  
 のかそろしき者有  
 り其民漢獵と以て  
 業とを地と大部ハ

功少ク亞美  
 理の沙と稱す  
 之能されは是  
 里東西ハ往來  
 環を繞らし

分ら其中の居民一  
 百七十餘萬あり



地球の地勢  
 分つ南北二大  
 洲北ハ地勢  
 鮮魚の躍る如く  
 みあそき了段を



英領六部

○上加拿他いざり

正の貪一き民此地

小来りて荒地と墾

一往々富と致と者

あり此地畑の土

肥草場多く牛馬と

蓄ふ小宜一首府と

給卑克と名く貿易

繁昌一蒸気車の便

むろけ一人の力

を著る者形ふ髣髴

たわも極氷海近

とて東阿非利

如歐羅巴の如き

利もあり奈羅拔索  
河及び伊爾登兩湖  
水小浮べる蒸気船  
の通ひ小年々小  
賑ひと益せり

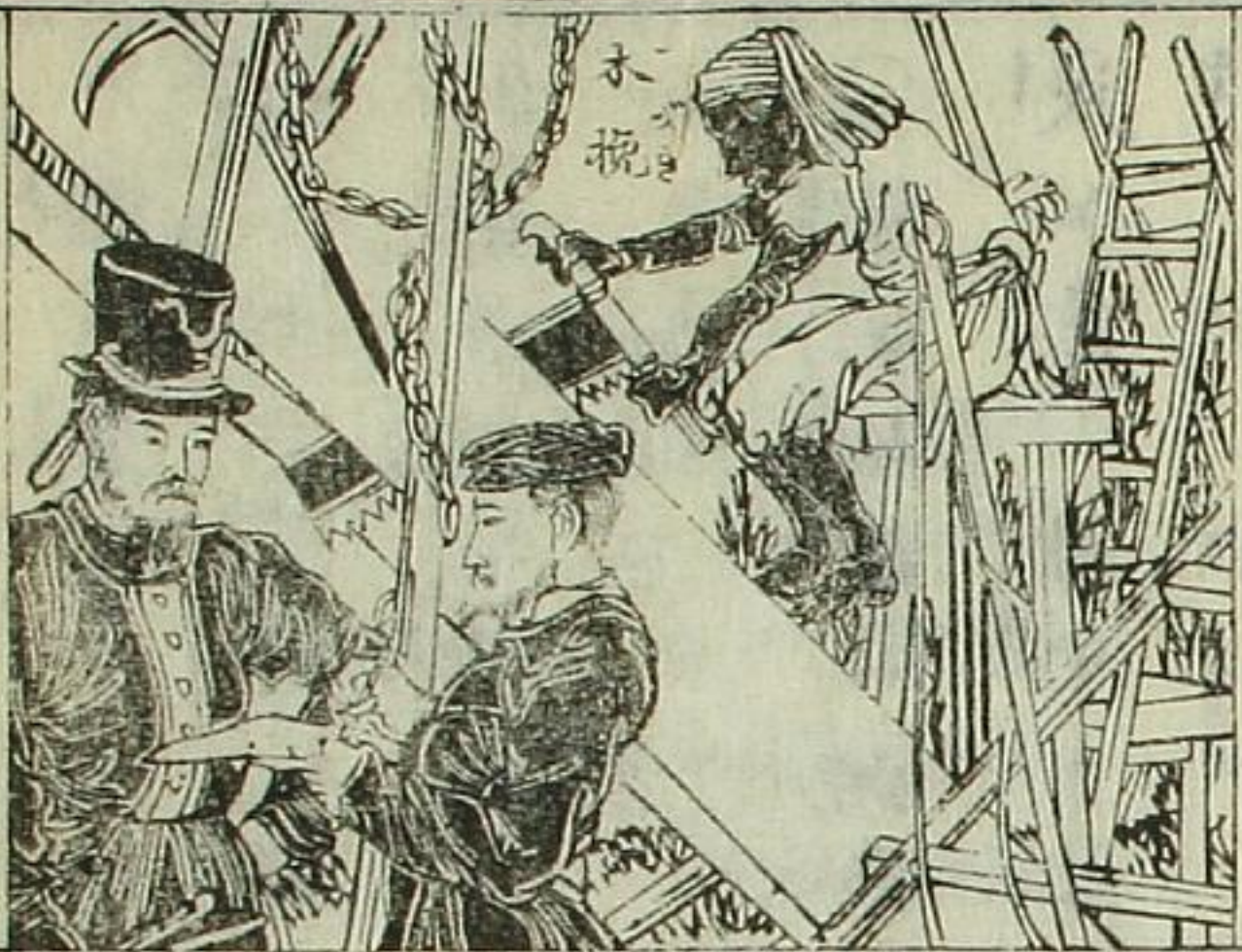


加奈田  
大滝  
余々

望む西の方大洋  
距く亞細亞海東  
境ひと知事する  
小亞米利加諸國  
の數おほくをむ

○下加拿他の居民  
 の大半佛蘭西人  
 洋教を尚とて産  
 勤めど又英の政事  
 の服せざる者多く  
 時々旗と揚げ叛く  
 小より英人兵力と  
 以て之と靖む其府  
 と多倫多又京斯敦  
 と名く

如く英佛の再  
 一土地も争ひの  
 端をみらまは八  
 八歳  
 の戦ひより佛を

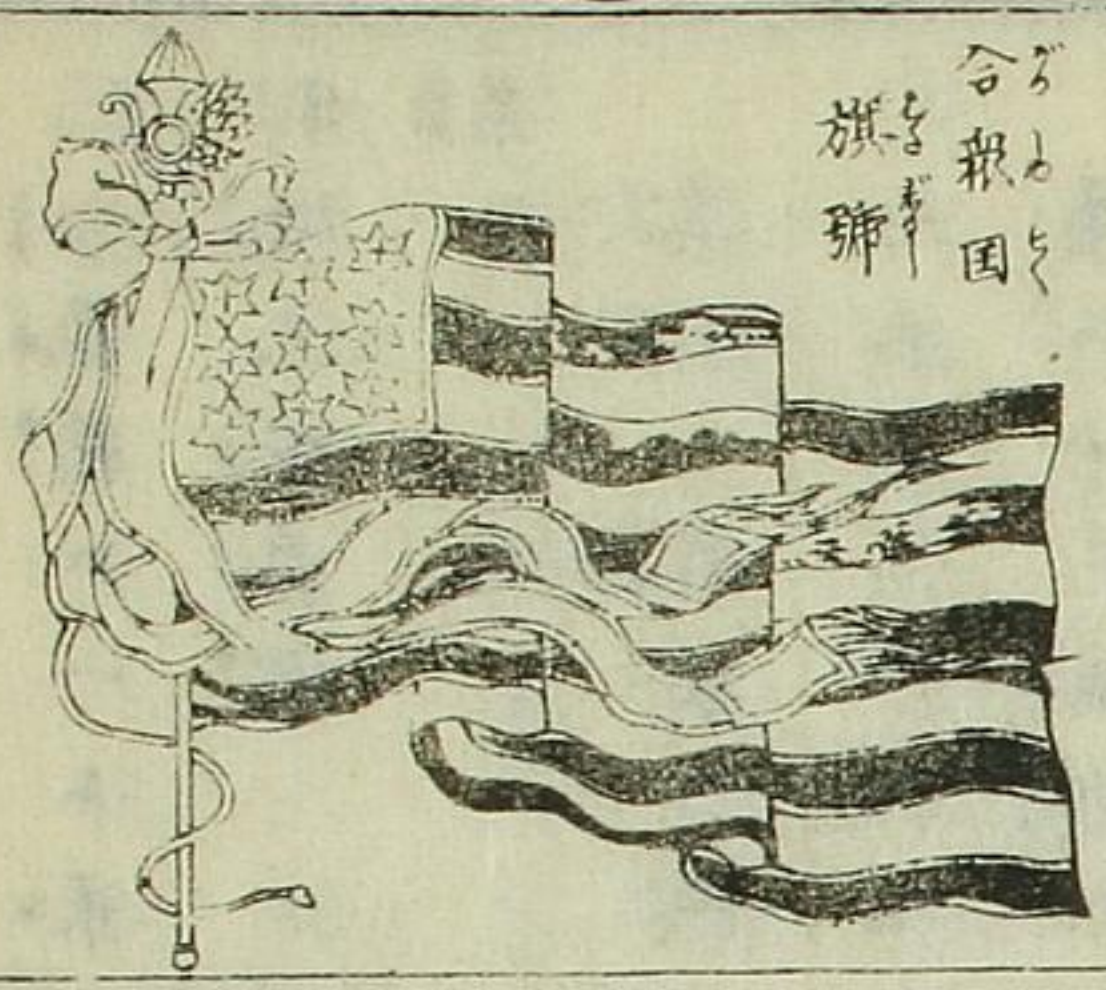


○新必烈軍の五人  
 英人と貿易の地  
 ○新不倫瑞克の地

攘ひく英吉利は  
 所領蔓延る十三  
 部土地を合せ絶  
 大能版圖より氏  
 の産業を起す

の樹を産するは  
最も多し其府を聖  
約翰と名け繁昌の  
地なり

○新蘇格蘭の銅鐵  
炭と産し海中魚  
多し府を赫立法と  
名く海濱の港多  
けり人少し  
○新着大島の大西



合衆國  
旗

洋の中を在り其民  
魚を捕むるを以て  
業とし其府を桑若  
漢といふ

明多き由骨折也。  
膏を絞る運上り  
英本國に政府よ  
○その  
里に  
小増月り倍差

をどそり  
敬重し小苛と酷き  
まらるるを暴死  
風せん争いぬ。  
柳の名を  
心は綿堪息の袋

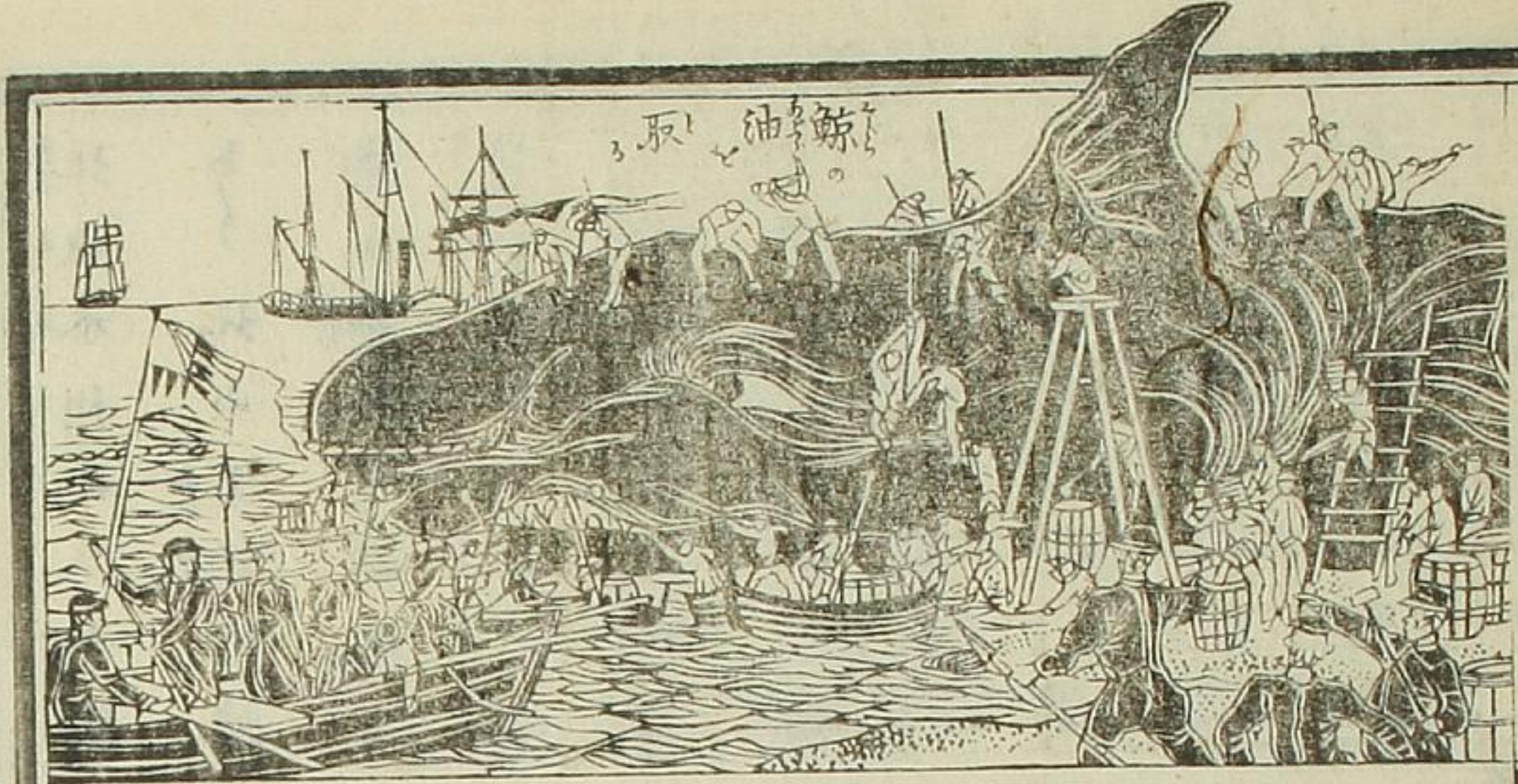
○合衆國ハ一ノ米  
利堅又花旗國トモ  
名ク

其船の花紋の旗  
と掛くるが故ハ  
爾稱せり其旗の  
致其實ハ北米の  
形ハと画きたる  
花形と見ゆ  
ナリ一物あり

破身そ身繩を  
むらむ民の自主  
自立北理法權も  
天道は忽ち助  
かり凱歌をあげる

北米利加の大國  
あり北米英領の地  
南ハ墨西哥得撒と  
界ハ東ハ大西洋海  
小距り押羅拉既俺  
の大山との東と環  
り落機の大山其西  
と繞り中間数千里  
地勢砥平ハ一季  
候宜しく其人民本

頭領華盛頓四歳  
り交代る共和政  
協力同意合衆社  
國は法律由り  
了文民百王信高貴



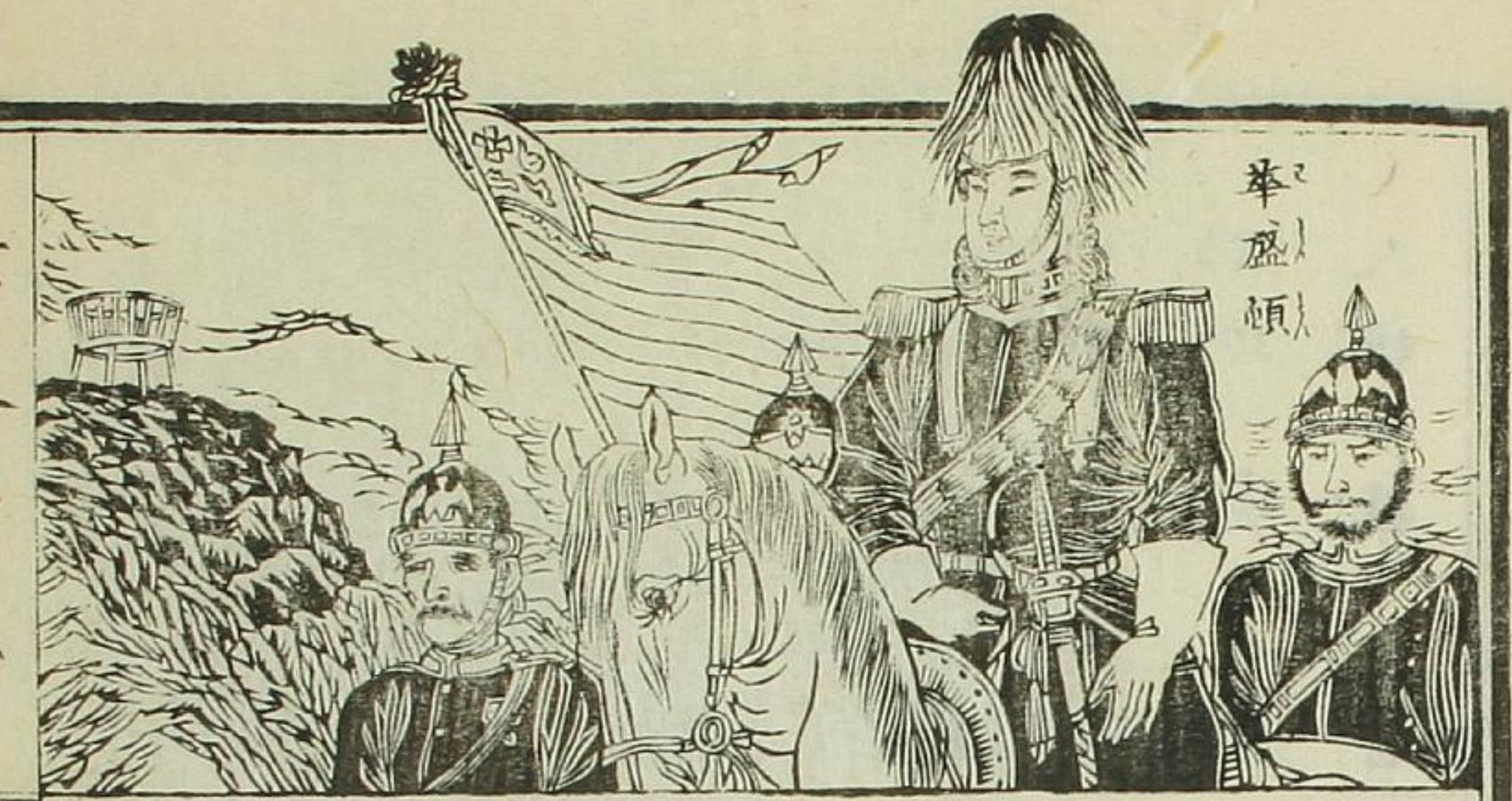
産物五穀山海の  
 百貨より満る國  
 の富年々知らる  
 市領は數え三十  
 七ありの中央より

英人の種属及び歐  
 羅巴諸國の人種あ  
 り其居民二千五百  
 萬京城と華盛頓と  
 名く城内の民大約  
 四萬三千餘人  
 此國英吉利小叛  
 き獨立して其民  
 自由を得國事善  
 盡し美と尽し今

建し大都府の名  
 え創業は華盛  
 頓の推舉の賢  
 人大頭領は居株  
 多如金沙數は

古  
 界  
 邦  
 各  
 卷  
 五

日の繁盛はるかにに至る  
 皆みな華盛頓ワシントンの成なり  
 功いさ中ちゆう因よるを  
 之これと敬うやまつハ重おもんと  
 稱なづ一いつ國こく父ふと一  
 其その都みやこ府ふと華盛頓  
 と名なく華盛頓ワシントンハ  
 米利堅メリケン別部べつぶの人  
 あり十歳じふさいハ一  
 父ちちと喪なくハ母ははの手

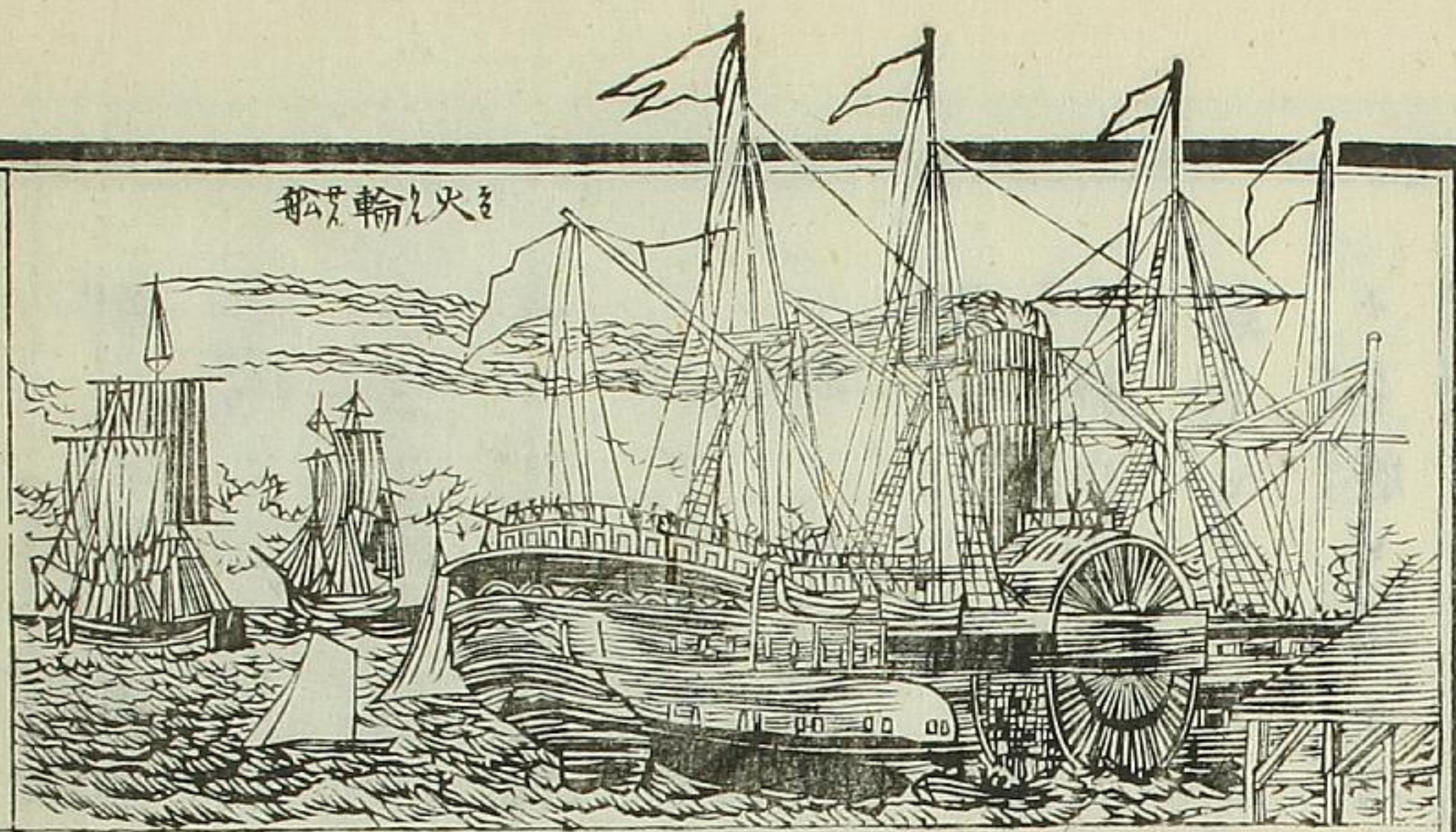


海地勢頗る  
 三角東南海を  
 うらなひし  
 丁尼底吉馬沙法  
 空華滿南細打尔

王中取分  
 勢集の富を法  
 好新約を主一部  
 民の  
 牧四百多とを

七日者

卷五



小生長少くして  
 大志あり文武雄  
 烈人不過と嘗て  
 英國の武職より  
 時不佛蘭西と兵  
 と構へ兵と卒一  
 と之不捷其功屢  
 々ありども英將  
 其功を奏せど郷  
 人頓を推して首

の他邊西耳文西北  
 を安別衣救會之阿  
 湖也伊爾黎聖湖を  
 距て東小英吉利  
 の領地より界を去一

大部府の金城も  
 物乃名とを家ド  
 稱之は紐約唐人合  
 衆玉此第一等  
 ある首府の大港

長とせんを欲も  
頃病小託け謝一  
と家小歸り門を  
社と外小出を是  
小至りて衆民英  
小畔き強て頃と  
推して大將と一  
血戦八年の間た  
艱辛をつく一終  
小全勝と得て合

みあとりり列ふ  
高船の數る子艘  
萬國は民も富境  
如砂傳え有級  
戦去るまて去地へ

衆政治の獨立國  
とみせり  
通國の居民英人と  
除くの他一五入  
一、小、亜、非、利、加、人、の  
後裔多くハ奴と為  
と者あり國內書院  
多く男女貧き富め  
ると論せを學ハ入  
らざる者稀あり又

小あかんとりり  
大部會産物百  
貨運送は内地の  
通貨並に車此  
利益も多し阿



新聞紙の盛んある  
 毎日板行する所數  
 千張書籍の出板も  
 亦少あらむ其獨  
 立の初めより國  
 王みく衆多の統領  
 テント一職あり  
 民の望み任せ其任  
 四年と以て満ちり  
 と其民耕作と勤

爾巴尼書院學校  
 濱武館兵備の諸  
 局達をあらへる  
 望みある長崎の上  
 下幾多の小府あり

め諸々の工を精  
 く或は海中に鯨魚  
 と捕る者蟻の如く  
 群り鯨の油を取り  
 と利用し供ふに足  
 る民の往来する者  
 二行の鐵路を置き  
 火輪車を用ひて一  
 日數百里を行く  
 又火輪船と洋行

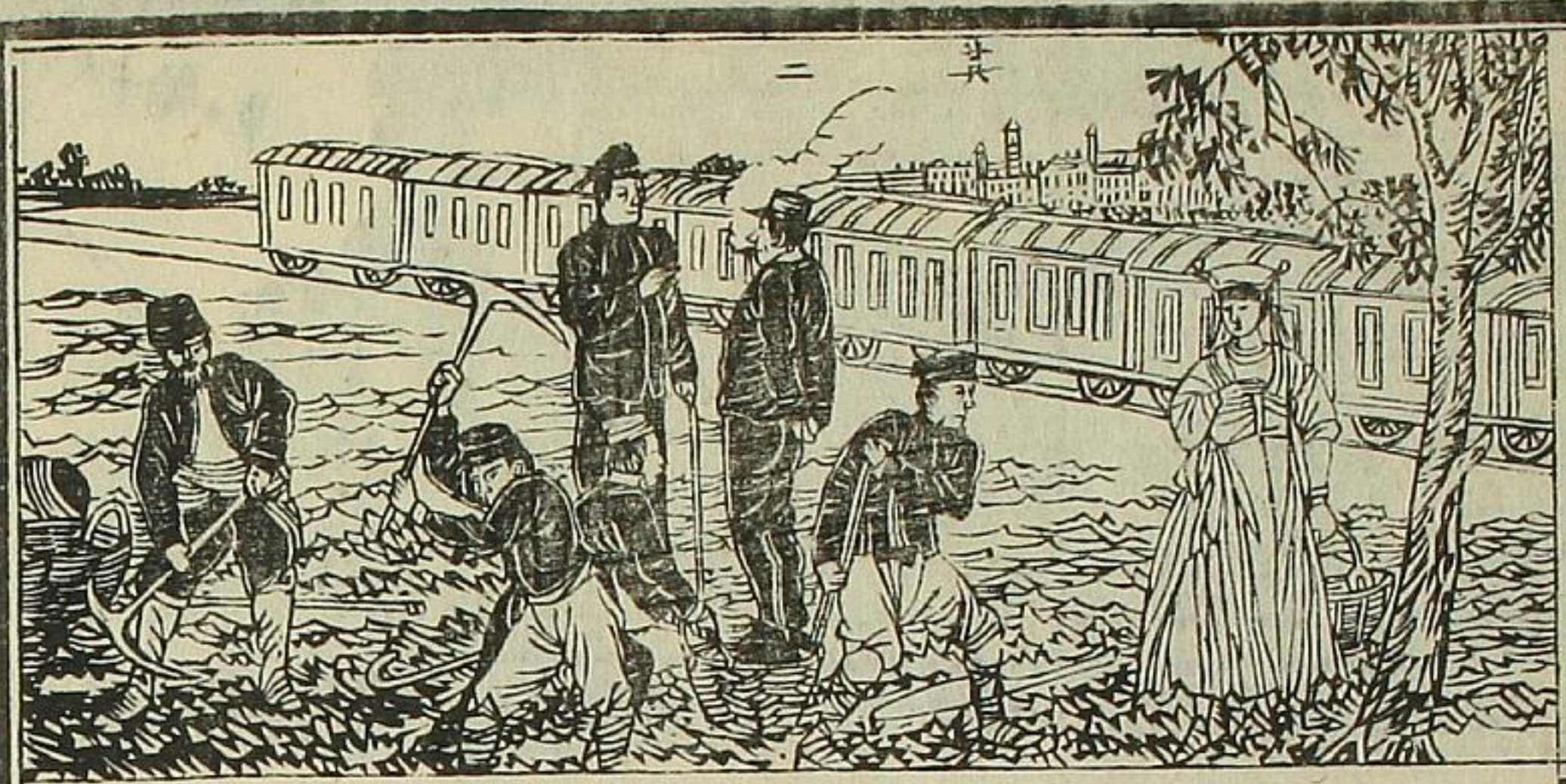
あるが中少くも  
 の不穀鄰の民は  
 數大約のそと  
 二十萬海軍巨大  
 の武蔵庫ふやる

逆浪を凌ぎ荷物の  
運びと自在な此  
外馬車馬船あり馬  
船の船と幸く纜人  
の力を用以て馬車  
牽せて走らざるも  
り民の家が二層  
三層五層ありて  
至つと美麗あり家  
の前は僅か空地と

の兵を推して  
最輕母を挿へ  
里。未開の民  
おのづから海  
漢。山は猶世  
すあどや田りよ



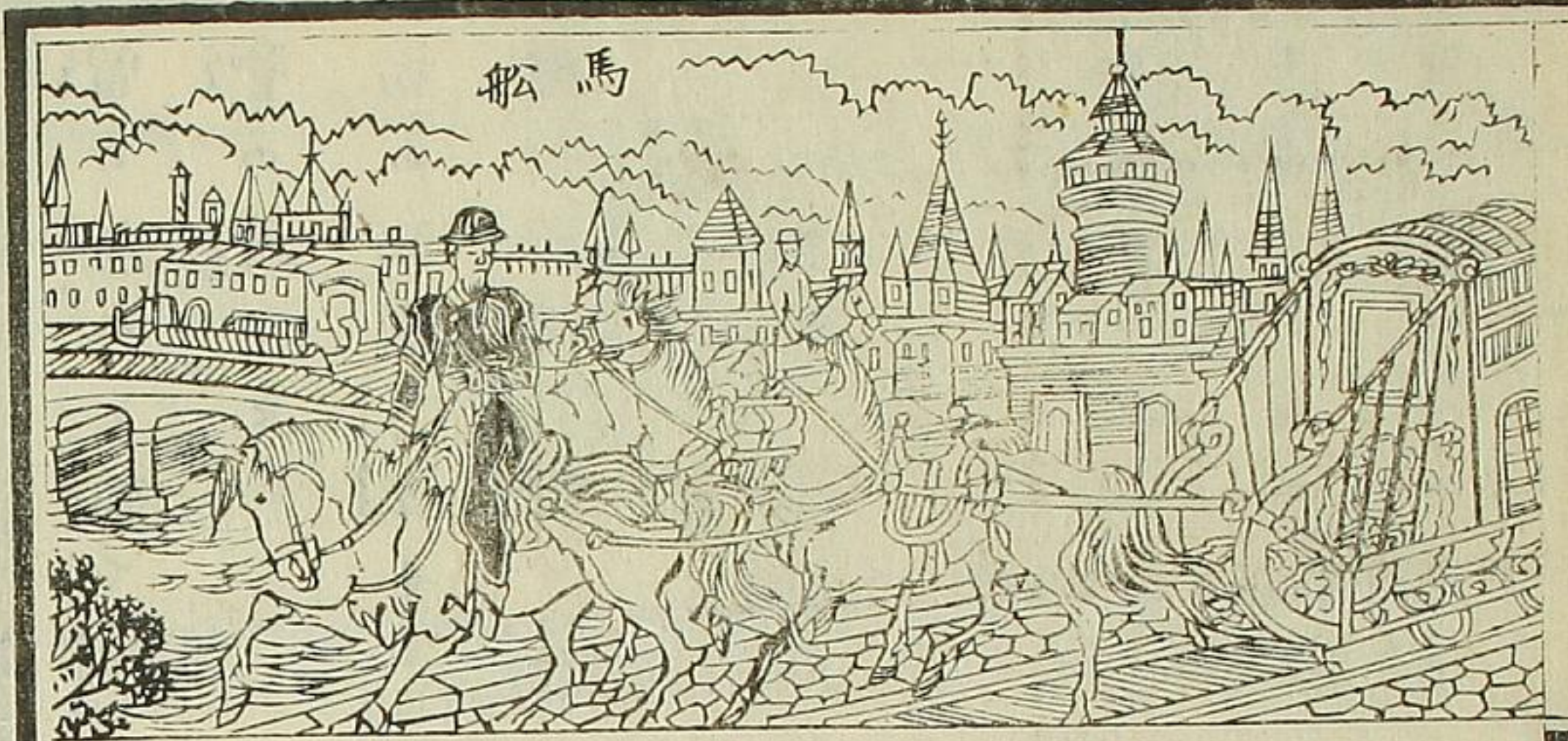
存在甲斐もあらず  
ま同く持て  
去るるは如國の  
澤は道はを利  
福尾小近き



昔々空は蔓のそ  
 むるまきく。枝まめら  
 まるその昔陸奥  
 山より七々々花と葉  
 里を替ふ好易ハ

留の花木と植て遊  
 覽の所とせ  
 初め此國自立  
 時十三省と得て後  
 小荒地を開墾し拜  
 び小佛蘭西大呂米  
 の二國より数地と  
 買入ると領分と  
 其後千八百四五  
 年南部の鄰国墨西

世界あり志るまき大  
 港右平海の海岸  
 あり。奈らぬ方あま  
 娘ひの基ひをむ  
 らる隣玉むぐ



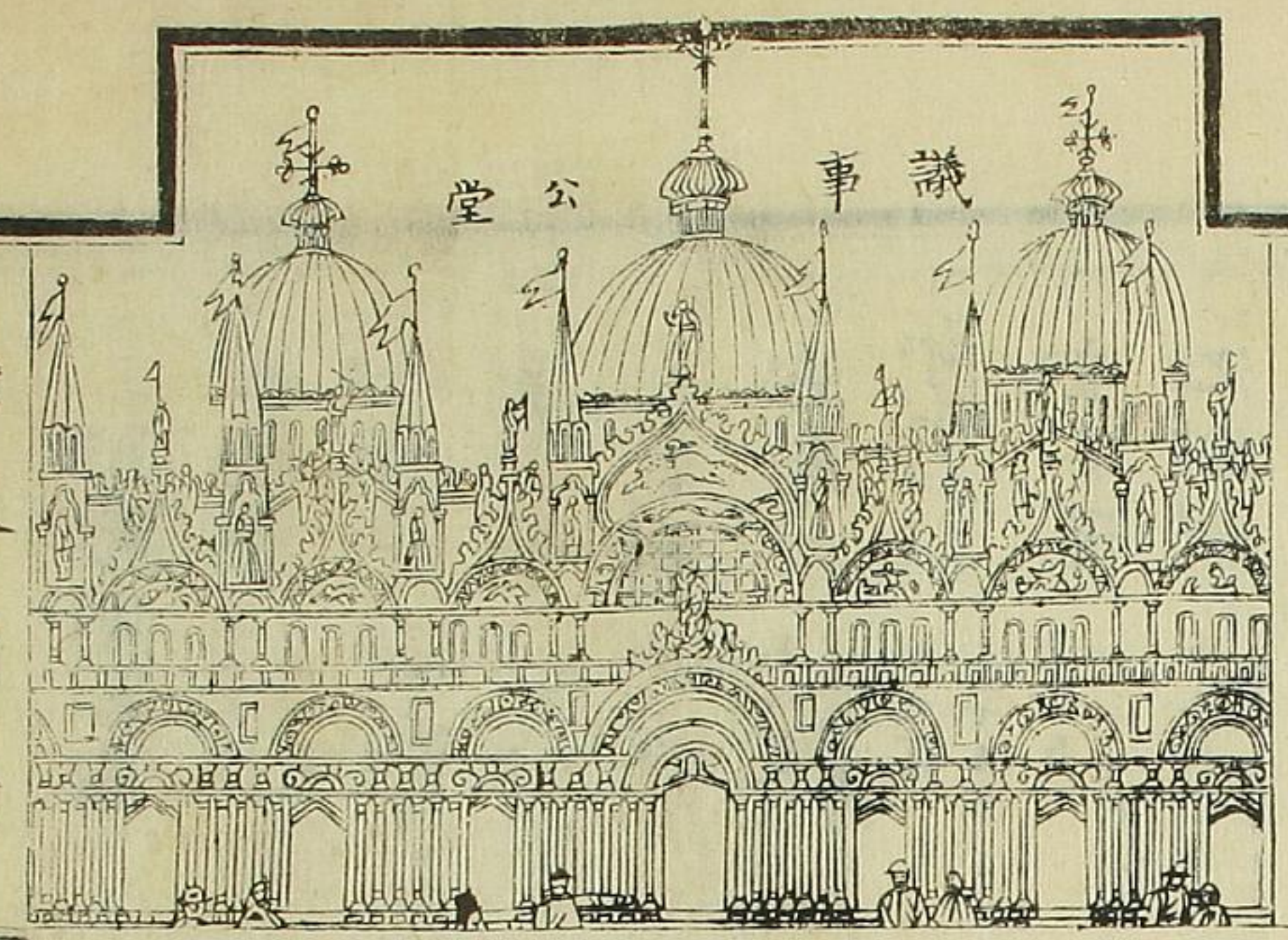
南小界に在る墨  
 西歌領に金銀の  
 土産は満る國に  
 富は貨幣にして  
 著るに如き一に弗

哥と戦争起り之を  
 捷ちてカリホルニ  
 ヤ等の諸州と領地  
 小加へ千八百六十  
 七年此州の北部に  
 ある魯西亞領と七  
 百万弗と以て購ひ  
 得る益々版圖を増  
 せり蓋し近年貿易  
 盛んなりて國富と

如名に如き一に弗  
 墨西歌國は小に  
 方合衆国より如き  
 一に中女ありて小  
 續きしる海生中

兵強く更々太平洋  
 小蒸気飛脚船と置  
 き日本支那等と  
 期日と定め相往  
 来し加ふる小又新  
 小濶大の鐵道と造  
 り直小南の岸よ  
 り西の岸に達し專  
 り東洋貿易の權と  
 掌握の任不當と

問は一大地は此  
 一先西班牙は此  
 出て居るとせ  
 民ん合衆の獨  
 立は常より此心



と謂ふべし

亦後より只官  
 望む不弱自由  
 子反きく十歳  
 執しいもみ執し  
 漸に勝を笑也

大統領次第

- 華盛頓 千七百八十九年より
- 阿丹士 千七百九十七年より
- 遮費遜 千八百一年より
- 馬費遜 千八百九年より
- 滿羅大 千八百十四年より
- 阿丹士二世 千八百二十五年より
- 查其遜 千八百二十九年より
- 泛標倫 千八百三十七年より
- ホルクッリン 千八百四十四年より

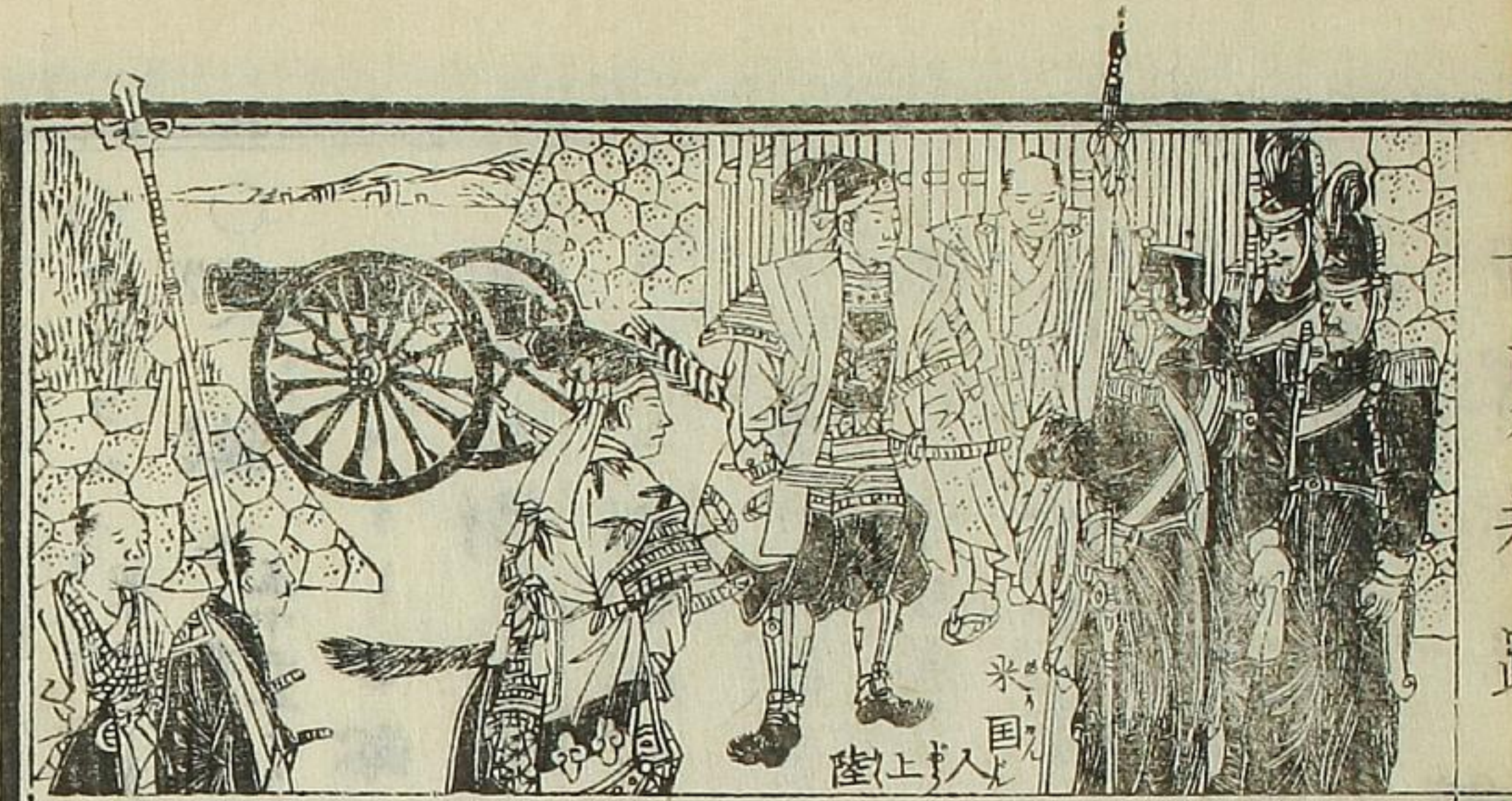
歡びひた眉をこしら  
 十五部あり  
 義都爾北達  
 人を君と宗  
 めく新政を建る

○タイロル 千八百四十八年より

○斐謨 千八百五十二年より

此代ペリーと海軍の大將として  
 日本小渡来始り  
 西國の和親と  
 結べり是各國と  
 交際の初めあり  
 彼千八百五十三年  
 則ち嘉永六年

律法調のく又  
 廢王能役を家  
 其れ政治の黨  
 を建て全國大  
 區二十四年分つ



法制大融合衆  
 玉ふ倣へどん人  
 乃志く取の浮重  
 や勢め午あま  
 の空しよのしん愛

癸丑年

○ブカナン 千八百五十六年より

○リネン 千八百六十年より

此代黒人賣奴の

論より南部の十

三州同盟してシ

チフルソレデー

ピスセ大統領の

任トリチモンド

の政府を定め獨

万やまきまを礼  
 百新基成る固  
 可らび首府大城  
 の達拉爾般山を  
 や浦やまを跨る

世界部各

卷五

〇二十

立たんと欲す  
 是は於て南北全  
 く分て五年の間  
 海陸の大戦争あ  
 りて千八百六十  
 五年四月終に南  
 部を降伏せしめ  
 南北一致して花  
 来の合衆國を歸

了。重くは連る敢  
 堂々壯觀たり  
 兵無慮するす。都六  
 能民口十二萬四万  
 の系もさそひ人た

○ジヨンソン 千八百  
 六十六年より  
 前の大統領リン  
 ゴルン任限満る  
 と雖も人望歸を  
 るより再び其  
 職に坐せしが南  
 部の餘黨を殺さ  
 せし惜むべし  
 ○グラント 千八百  
 六十九年より  
 此人彼南北戦争

勢が山川秀々  
 樹木好まむ花咲  
 以て一倍はあがめ  
 業あ家風情あり  
 市民富むハ西班

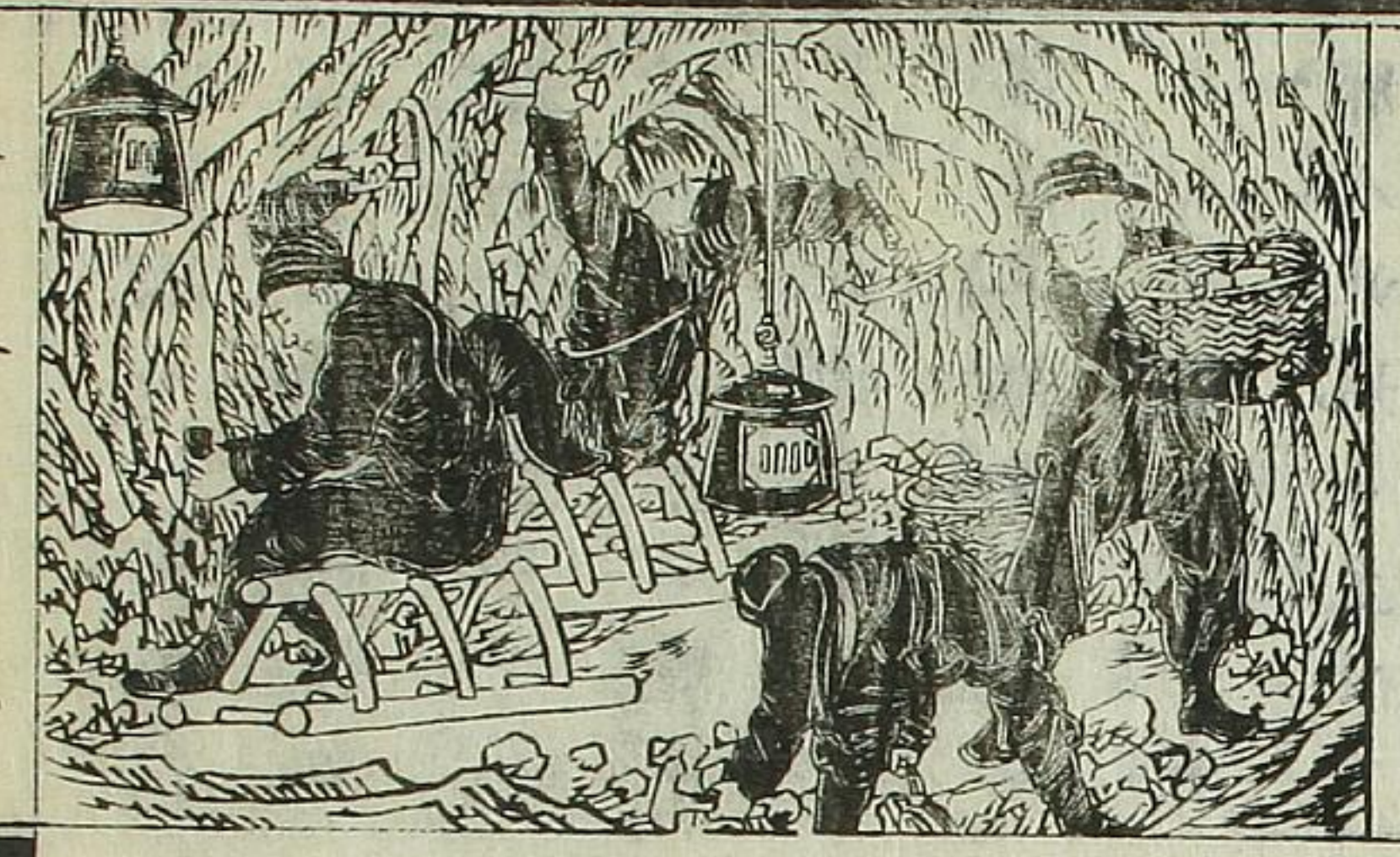
世界各

卷五

○廿一



の時總軍の大將  
 小任ト大功あり  
 昨年既小其任限  
 満ると並次職投  
 票の全さを得さ  
 るを以て再職を  
 米利堅獨立建國  
 り今年や八十五  
 年大統領十六代  
 至る則ち彼千八百



七十二年我明治五  
 壬申年より

世界邦各

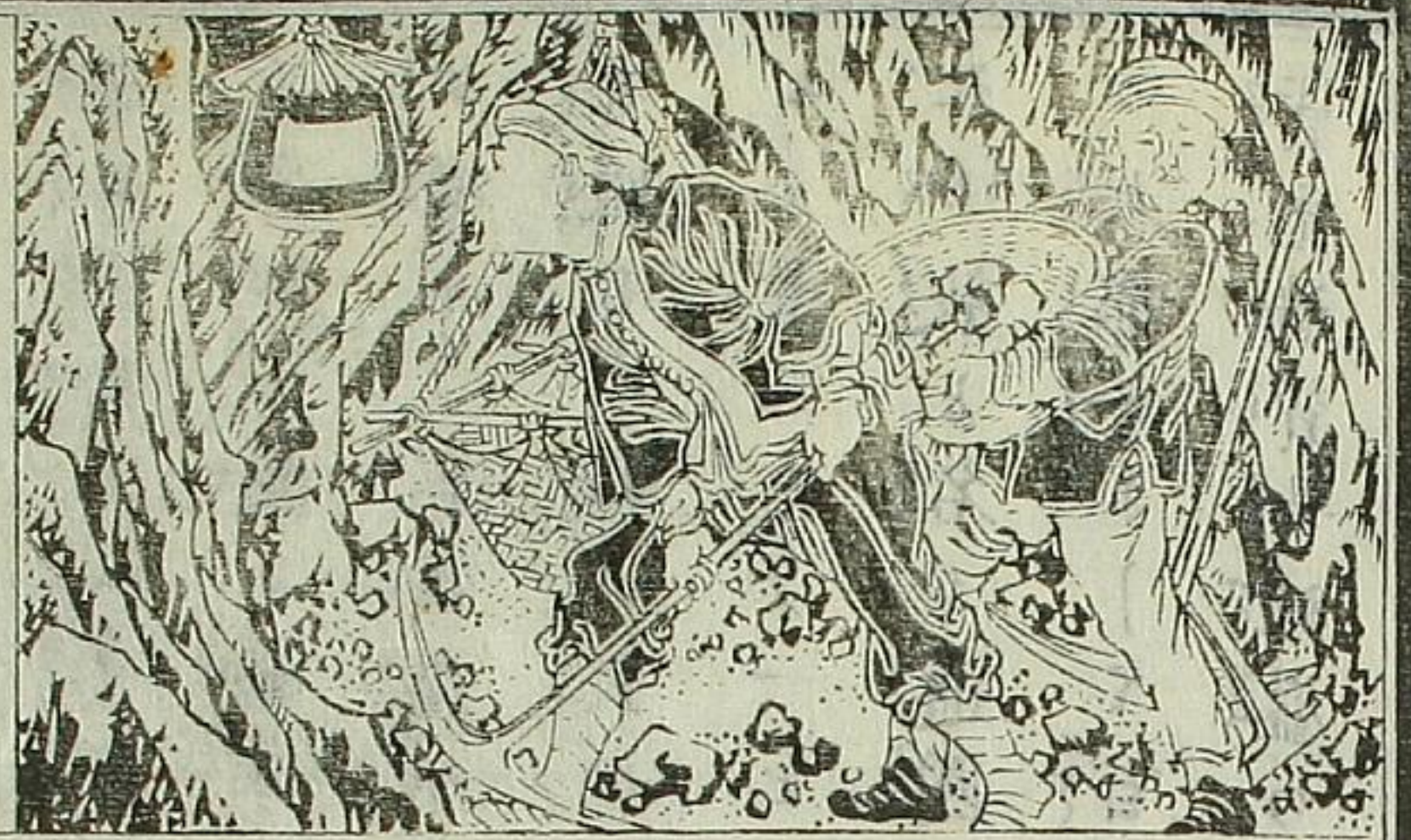
牙能旧弊深く  
 男女之綺羅を  
 飾まざる花の  
 乗馬に背ふる錦  
 繡を中々入る趣

山外あり関牛  
 競馬は樂しき  
 國の力も減るら  
 ず此も西の海  
 人煙おまき亞

卷三

合衆國のかりり  
 小や元墨西哥の  
 領分あり一々千八  
 百四十五年の戦争  
 より此國の領地  
 歸き其地金を産  
 ること夥しく今支  
 那人此地に至つ  
 金堀を以て業と  
 する者数万に及り

加補羅可生十字  
 架東方の大捕頭  
 やさし古くは  
 西人愛りは来  
 し今もなり

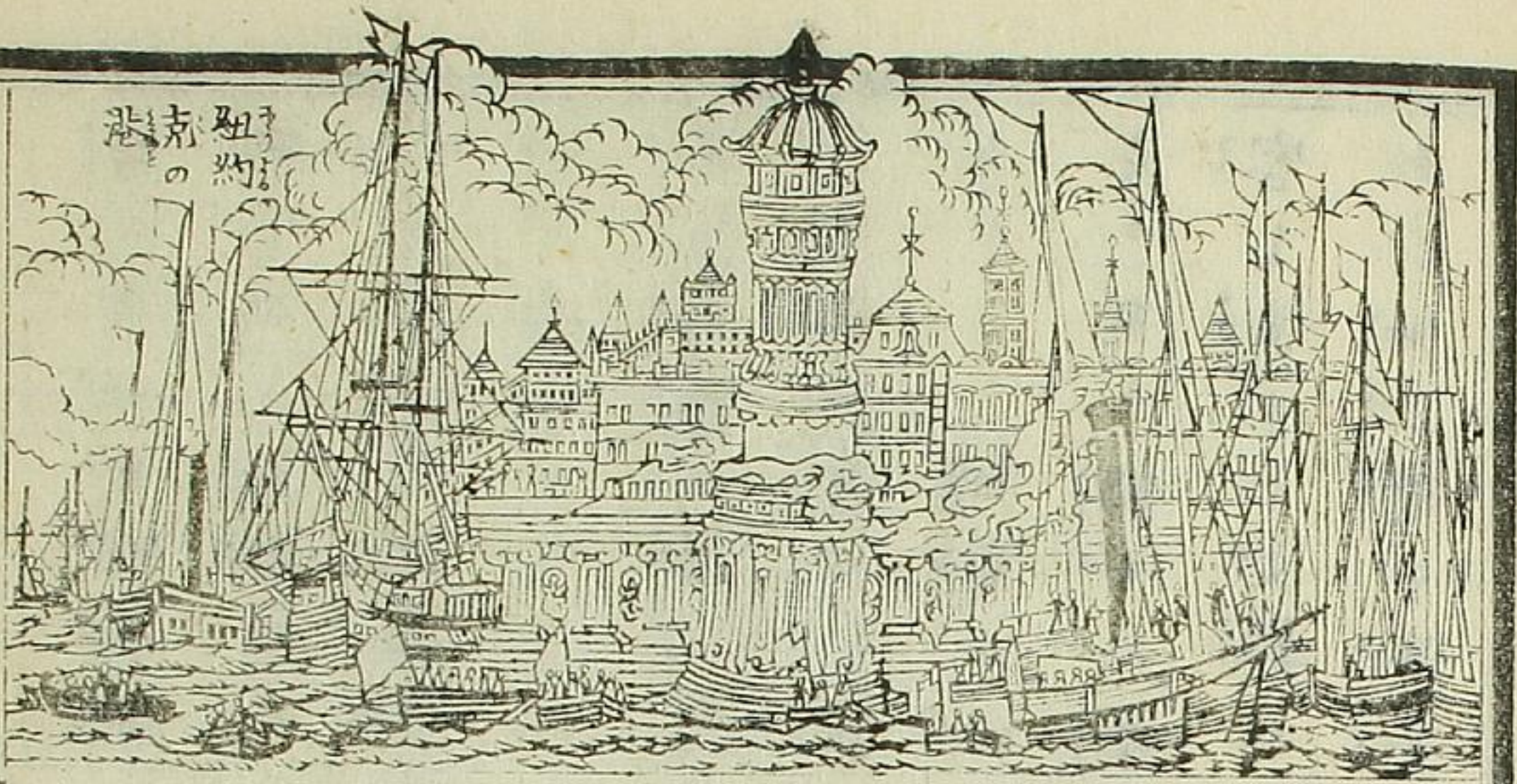


京城華盛頓の國の  
 中興あり居民少

我美ふととら  
 列ふ徳とに船  
 泊里由南國へ往  
 海口や船の屋  
 の著るのま火新目

一と雖も其名高く  
 大統領の居城と為  
 毎年各省の人來り  
 法制と議と議事  
 公堂あり各省俱々  
 省城あり城の大ひ  
 ろ。者三あり一と  
 北士敦と名く通國  
 の大都會ありて百  
 貨元満貿易極盛の

的<sup>あて</sup>の<sup>り</sup>入<sup>いり</sup>海<sup>うみ</sup>を<sup>を</sup>本<sup>もと</sup>  
 小<sup>ちひ</sup>底<sup>ぞこ</sup>季<sup>き</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>境<sup>さかい</sup>  
 きたる地<sup>ち</sup>馬<sup>ま</sup>拉<sup>ら</sup>  
 の<sup>の</sup>五<sup>ご</sup>箇<sup>くわん</sup>必<sup>かならず</sup>其<sup>その</sup>地<sup>ち</sup>  
 勢<sup>せい</sup>次<sup>じ</sup>あり<sup>り</sup>細<sup>ほそ</sup>



長<sup>なが</sup>く。安<sup>あん</sup>達<sup>たつ</sup>斯<sup>し</sup>の<sup>の</sup>  
 山<sup>さん</sup>脈<sup>みやく</sup>千<sup>せん</sup>通<sup>つう</sup>る<sup>る</sup>也<sup>なり</sup>  
 舟<sup>ふね</sup>の<sup>の</sup>路<sup>ちよ</sup>程<sup>りやう</sup>も<sup>も</sup>東<sup>あづま</sup>  
 也<sup>なり</sup>西<sup>にし</sup>に<sup>に</sup>大<sup>たい</sup>洋<sup>やう</sup>あり  
 渡<sup>わた</sup>し<sup>し</sup>掛<sup>か</sup>る<sup>る</sup>海<sup>うみ</sup>流<sup>りゅう</sup>

處ありニと紐約商  
 格と云ふ其府の大  
 ひあゝとと世界第  
 三小居るべし三と  
 非拉特勒比亜とい  
 ふ府内屋室の壯麗  
 あのことと列省比  
 まゝかゝり婦女の姿  
 容も美しく又類ひ  
 あゝ此三府の地蒸

橋は。形多。形  
 と。多。母。ら。魚。人。  
 自主の権。架  
 星。西。多。此。階。房  
 そ。多。あ。ま。し。く。物。多。の。

氣車四ヶ所より出  
 入を全國の時候日  
 本支那と同トく地  
 味宜しく豊満中一  
 産物五穀棉花布  
 羊毛布烟草塩白糖  
 良材錫鐵金銀石炭  
 鯨魚油紙ガラス陶  
 器等あり又獸畜の  
 馬牛羊熊麻狐狸其

五部。ふ。分。ち。し。  
 第一の都府の都  
 是地。多。拉。ふ。次。く  
 聖。薩。刺。弗。佗。尔  
 の。港。り。盛。る。交。易



他各種の鳥類あり  
又一種の毒蛇あり

○南の海に親を  
結ぶ。括りて  
細婦くら中粟  
利加の者必も  
由自立た勢ひを

尾の響きの蟬の鳴  
が如し人此蛇小噬  
ずるは立所命  
終ると云へり  
○墨西哥の合衆國  
の西南あり古來  
西班牙國の領分  
り一が千八百二十  
一年西班牙の畔  
て自立の國あり

見よる甲斐あり  
坂の御足はぬ  
かふ群らして集  
と見まきる疾風  
小舟ぬれしこと



多し一筆西多  
湾の東南ふ  
まめとて能る  
の巨岸小技  
左巴崎西班牙

合衆國の制度小倣  
ふと雖も其民奢侈  
小ふけり聰穎あり  
者少し書學校稀小  
し知識と見せ屋  
宇大きく三層小造  
りて最も美あり男  
女美服を好みて外  
小出る時の良馬小  
錦の衣を飾り之小

耳一層古より今  
小瓶のぬ黒白の  
民の膏より土肥  
物産多し  
豊境を三都小

古今事略 卷五 〇廿七



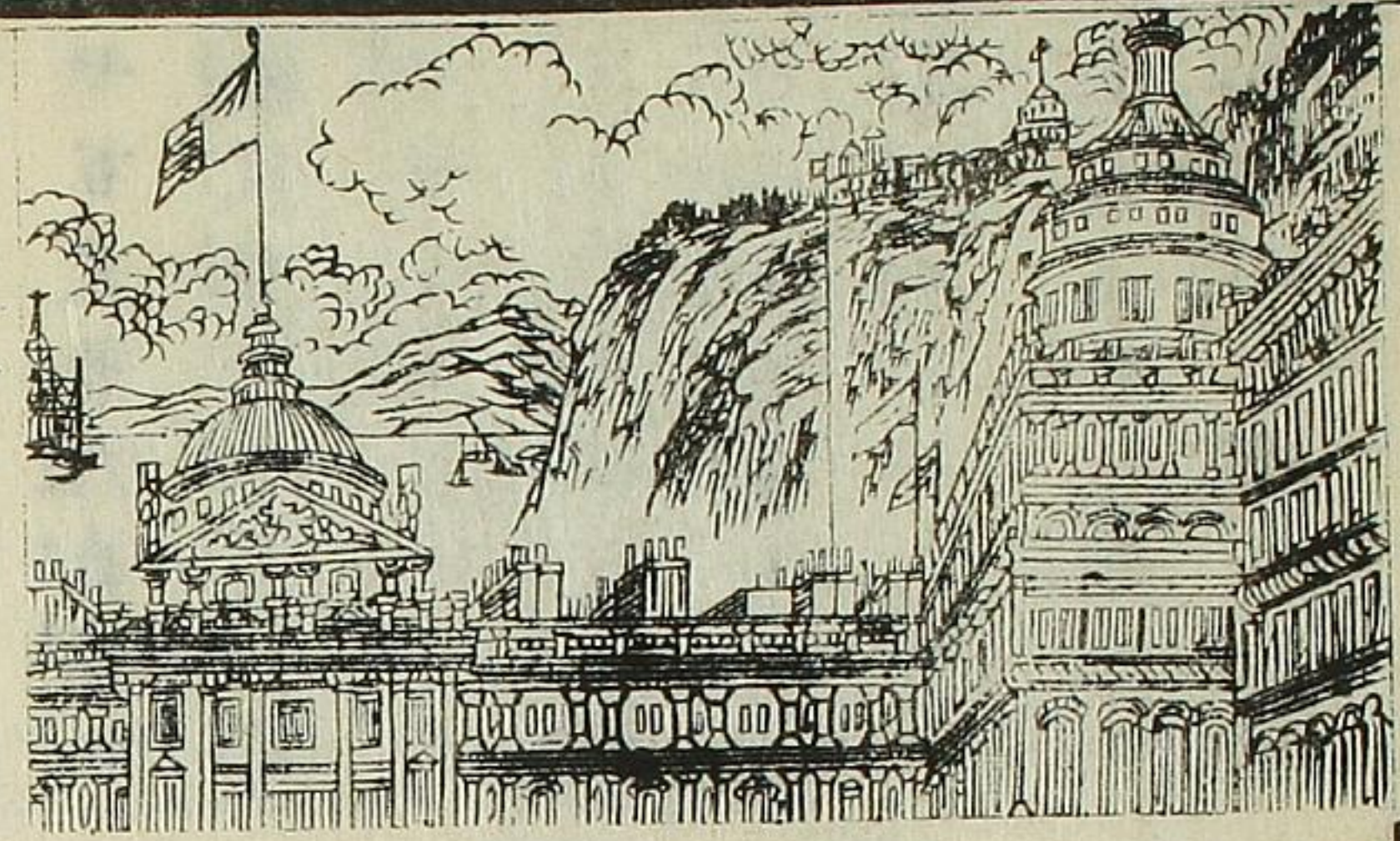
部ふ俱く小こ府ふ城じやうあり首くび  
二に十じゆ四し部ぶ小こ分ぶんつ各かく  
乘のりりて游あそ行び且かつ其その他た

別わかつ西にしに部ぶ乃の。  
其その府ふ哈は角かく那なの  
産さん物ぶつ一いつ種しゆ也や。  
類るい如ごと煙えん香かうる四し。  
方かた予よ葦あし乃の。

府ふの地ち勢せい甚しばしばは高たかく  
海うみ面めんと離はなりて  
七しち百ひやく丈ぢやう府ふ内うち美み麗れい壯さう  
觀かん後ご園えんの地ち多おほく花はな  
木き繁さかり暑あつを避さるの  
所ところあり城じやう外がひ近ぢかき所ところ  
小こ大だい湖こ敷しき處ちあり又また  
高たか山さん發はつ坐ざあり常とこに  
頂たかき小こ聖せいと積つむ又また  
火か山さんあり烟えんり天てんと

傳つたへて諸しよ國こく乃の。  
高たか個こ率そつひて將まさ。  
小こと乃の甚しばしば多おほく乃の。  
里さと死し中ちゆう部ぶの乃の。  
府ふを三さん遠えん馬ま里り。

古こ界かい下げ部ぶ各かく 卷まき五ご



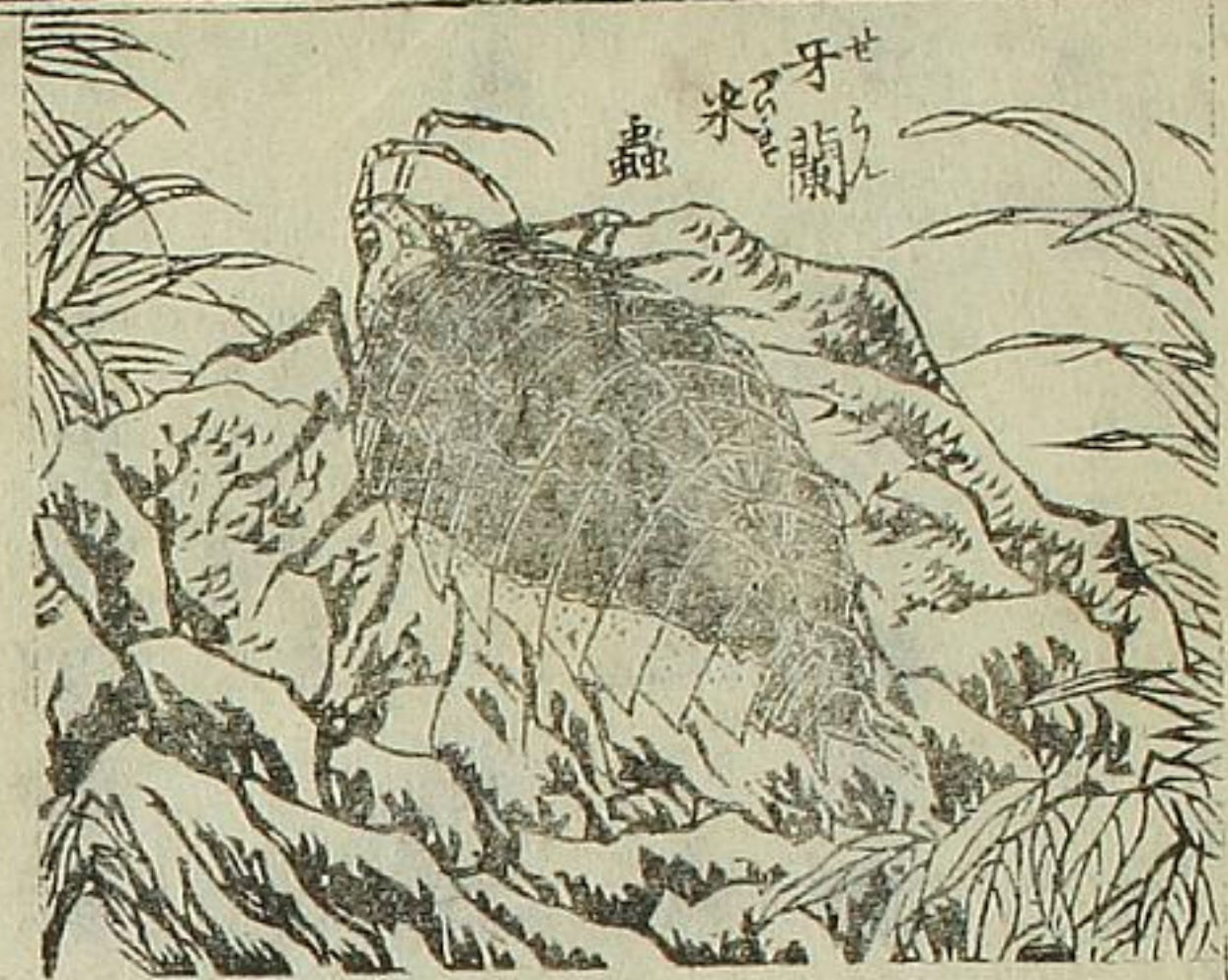
貫く田地肥へ一  
年の内小穀物二度

東部のその府を  
三的牙額元  
の方りをあま  
白人多き波  
爾多穀谷由爾

と産を國小金銀多  
く毎歳番銀二千數  
百万を得る南方の  
人衆く北方の少  
産物五穀番銀棉花  
青黛香料木料又一  
種の蟲あり牙蘭米  
と名く人民之を養  
ひて食とを約洋蟲  
の如し

のぞ  
診む牙買か  
英吉利領は一の  
山の間を飛  
橋より久くなる溪  
水耕の道を





○危地馬拉の墨西  
哥の東南のあり地  
形狭く両海の間  
直り東南巴拿馬の

資のふ天の奇  
工千人能智を  
是く地震暴  
風ふ毀く能く  
今株修理は成

地峽小界を此地本  
西班牙の属一墨西  
哥の附一ヶ千八百  
二十四年間自立一  
と国地と五穀小分  
つ大府二あり一  
新危地馬拉と名  
二と聖薩刺弗佗爾  
と名く此他各部俱  
小會城あり地味肥

功く他府小修造  
一京敷巴突崎  
其西方を此  
鳴れ總稱を安  
的列邦と稱す

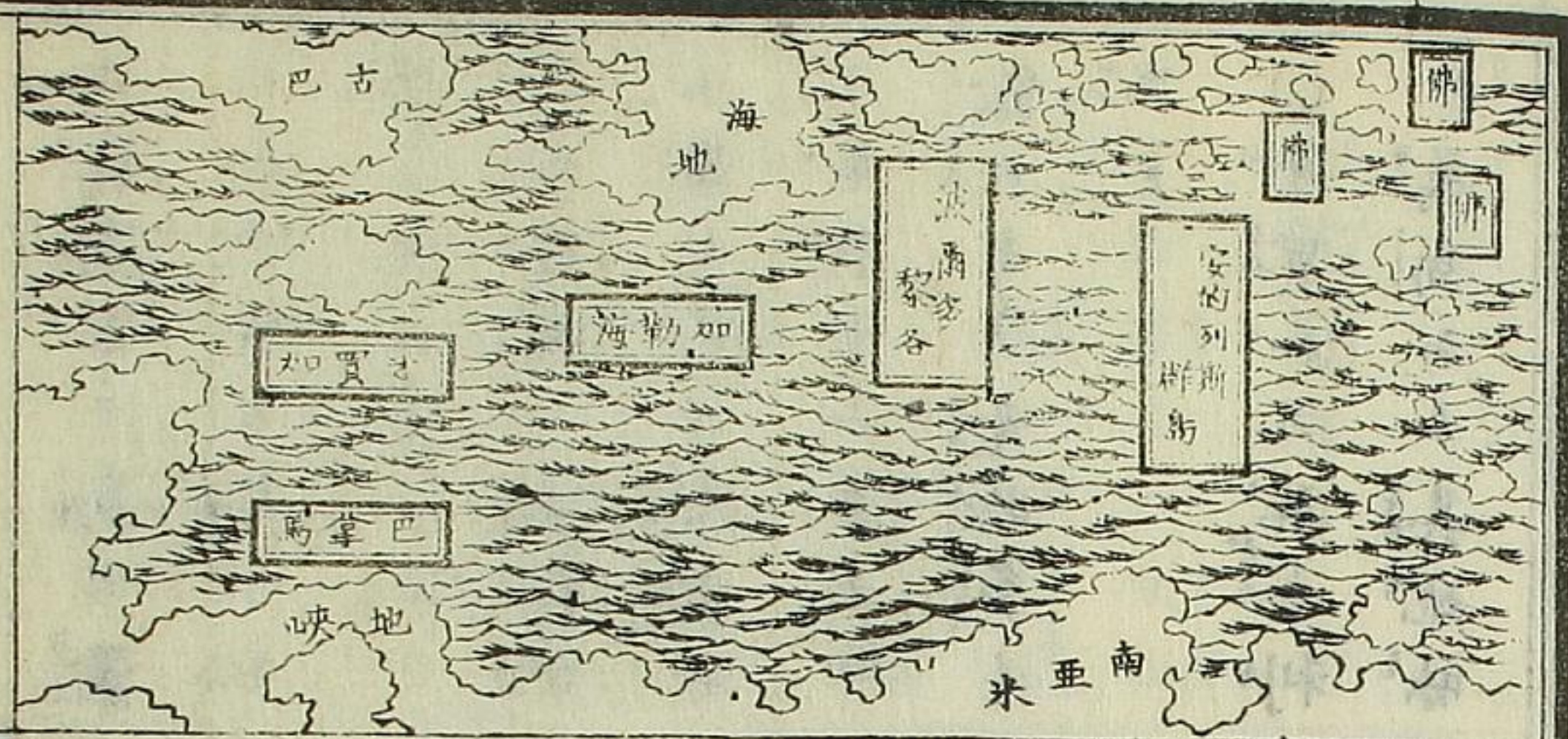
古月 下 各

天 二

○ 卅

穀果豊小一と産  
 物多く金銀珠良  
 材藥品牛皮と出  
 ○南北西亜米利加  
 の間数多の海島  
 り総て西印度群島  
 と名く其地半の英  
 吉利の管轄小附  
 其餘の佛蘭西小属  
 在者あり又西班牙

多米尼加多色峨  
 鳴都多早星羅  
 佛勒尔  
 安地馬亞吉  
 中



世界者路

卷五

○世一

勒務聖國  
 可倫坡  
 浪  
 木  
 夫

の属島あり島の最  
 る大ひある者と古  
 巴と云ふ  
 ○古巴嶋の西班牙  
 の属も内の大府あ  
 り居民十二万五千  
 餘人あり産物多く  
 出と  
 ○牙買加の英吉利  
 の属島あり其地味

知人多く小方巴  
 哈麻那群島  
 ○ひがし  
 東百爾慕  
 他諸島あり大  
 小凡救百島あり架

農功盛んあり

此群島大ひある  
 その多くなり火山  
 あり故に地震頻  
 りあり毎年秋  
 冬の間に暴風吹  
 き起りて沙石と  
 飛せし家と破り  
 人と損と  
 ○東方の島總名と

如くそのと産物  
 能く群島あり  
 人種多し海らぬ  
 土りよりなるあり  
 人英地を去りて

七 馬 者 路  
卷 五



海島火山

佛 為 東 西 小 屋 不  
馬 耳 的 尼 加 路 之  
能 他 所 他 康 島  
之 安 的 列 斯 此  
此 之 筒 此 鳴 之

安的列斯群島と云い  
ふ北方にあり者  
巴哈麻群島と云ふ  
又東北百爾慕他群  
島あり大小凡數百  
島氣候温たりあり  
と物産殊に少  
○海地島の古巴の  
東に在り往古科崙  
布新地と尋ねて初

中 午 一 日 物 産  
豐 饒 貿 易 亦 盛  
里 花 名 所 也  
秀 名 之 轉 里  
四 季 之 風 景

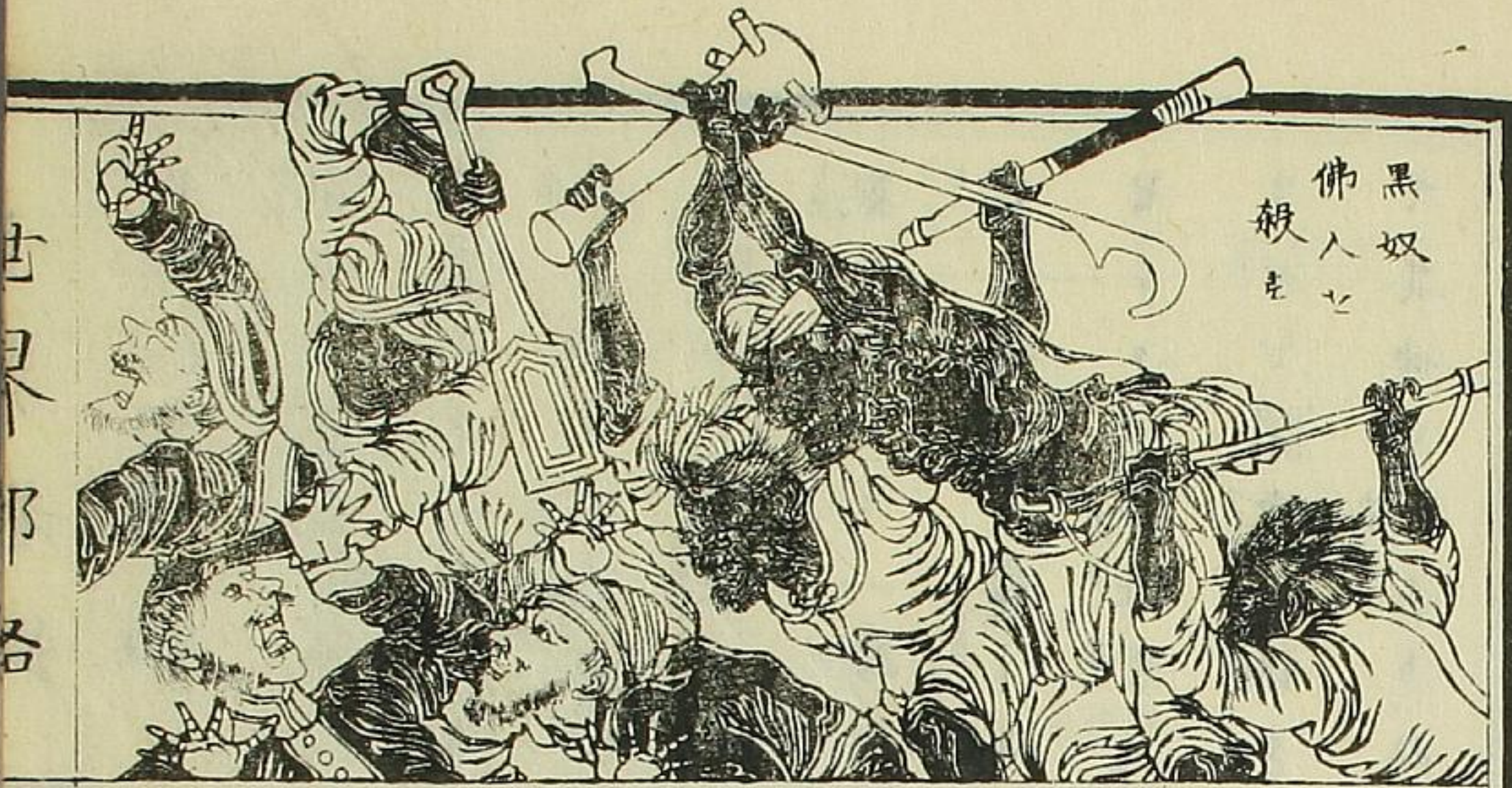
古 界 下 各

卷 五

○ 卅 三

めて此島に抵り名  
 けと義斯巴尼約拉  
 といふ後西班牙其  
 東偏に據り佛郎西  
 其西に據る而して  
 多く阿非利加の黒  
 人を買ひ力作させ  
 るると年久し黒奴  
 凡四十餘万佛人僅  
 一萬に餘り然る

山水の奇の地  
 一刻千金能出  
 入諸島のみ  
 ある古巴に  
 海地は佛人



叛きし獨立の  
 部亦分つ黒人  
 酋長土地を占  
 領。政府波爾  
 多筑おく今株

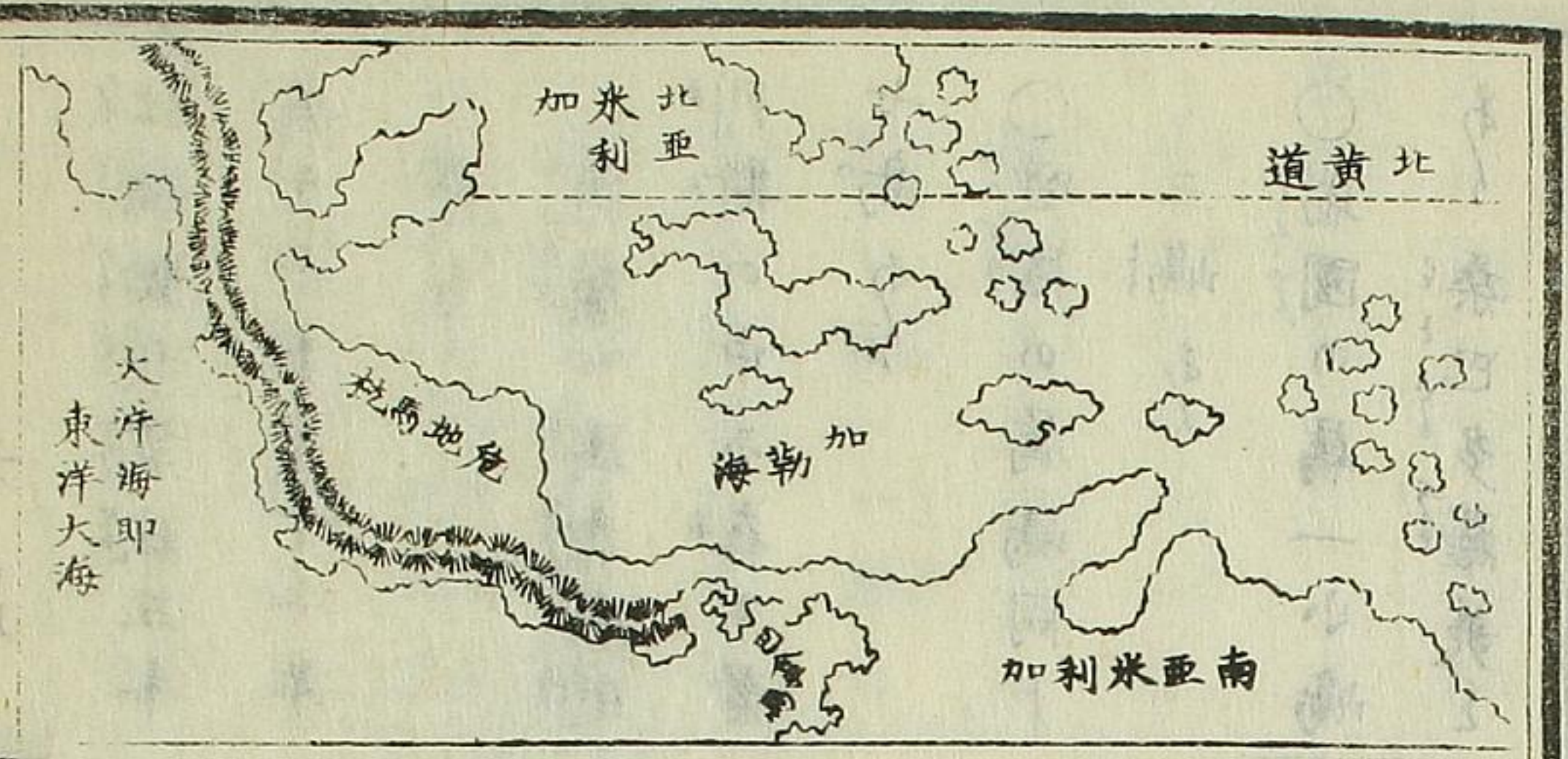
古

天

○廿四

小佛人黒奴を苛く  
役ひと恩寡きよよ  
黒人之と怨と  
其本國内乱あり  
と聞知り黠者ども  
期と約し一時小  
發し佛人と鑿し小  
せしと聞傳へ怖と  
て其地と逃去りぬ

知く護るに  
よまらあら夷  
地味豊た存れ祥  
お能く耕と業  
子とたし海を去



中領荷蘭連國  
その属多の此  
波多安安的列斯  
の中ふある此  
を經る

此驗動我寬政三年  
彼千七百九十一年

の事あり

○荷蘭の屬島安的

列斯の中在る者

七島あり

○暹國の屬島同ト

く三嶋あり

○瑞國の屬一小嶋

あり 桑巴多羅美ト

世界。西に印度

北に阿やまの海

名づき南極の島

叢叢人々亞墨利加

洲の南を分る

云ふ共小安的列斯  
群島の中あり

亞米利加兩洲

横數萬里海湾小

群島嶋ハ一挙の

石を基布らる

如く許多あり夫

が中ハ古巴海地

の西の大嶋あり

の之其餘ハ皆大

已拿馬其地理

つぎ鐵路を築

気車の極つて

踏む心地一瞬

と死するのみ

同小異あり歐羅  
 巴人意と極めて  
 此嶋々を搜り求  
 め其片土を開墾  
 の功能少から  
 ざるべし

沙彼よお指せら  
 水境は可念は  
 小ぞる者ふある

神武の神々  
 云々

巴金剛なる新語



